

静岡県文化プログラム

# ふじのくに |伝|統|芸|能| フェスティバル

地域とともに、  
大人から  
こどもたちへ

県内各地で  
子どもたちとともに、  
伝統芸能に取り組み  
団体が集結！  
次世代へ受け継ぐ  
成功事例に迫ります。

入場  
無料

## 出演

- ◆ 笹間神楽保存会(島田市)
- ◆ 遠州横須賀三社祭礼囃子保存会(掛川市)
- ◆ 獅子舞かんからまち保存会(掛川市)
- ◆ 静岡県立駿河総合高等学校 和太鼓部(静岡市)
- ◆ 富士宮囃子保存会(富士宮市)
- ◆ 長谷川晴彦(観世流能楽師)



[司会]  
久保ひとみ



[コメンテーター]  
岩下尚史

## 申込み方法 (事前申込制、先着順)

TEL、WEBフォームからお申し込みください。  
TELの方は [お名前・住所・電話番号・参加人数] をお知らせください。

TEL.054-289-9000  
(グランシップチケットセンター/営業時間10:00~18:30)

WEBフォーム <http://www.granship.or.jp/entryform/>

受付後、入場券をお送りいたしますので当日お持ちください



2019年9月22日(日) 14:00開演 グランシップ 中ホール・大地  
(13:30開場) (JR東静岡駅南口から徒歩約3分)

<http://www.granship.or.jp/>

グランシップ 検索

# ふじのくに|伝|統|芸|能|フェスティバル 地域とともに、大人から子どもたちへ

2020年に向けた静岡県文化プログラムとして2回目の開催となる「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」。県内に数多く残る様々な民俗芸能は、古くから各地域の大人から子どもたちへ、脈々と継承されています。

中でも、地元の子子どもたちが積極的に活動している芸能は、地域の祭りや学校行事の中に息づいていて、子どもたちのアイデンティティを育みながら保存と継承が行われています。

今回は、様々な工夫と努力によって、芸能を次世代に受け継ぎながら地域振興に取り組む芸能団体が集結。舞台上で繰り広げられる芸能の実演に加え、その成功事例の周辺環境にも迫ります。

## 出演



### 笹間神楽保存会

島田市川根町の笹間上地区には、駿河神楽の流れを汲む笹間神楽が伝えられている。戦後途絶えていた笹間神楽を当時の青年団が復活し「笹間神楽保存会」を結成。地域の文化遺産の保存を図ると共に、地域の活性化にも貢献。地元の川根中学校の生徒たちに3つの舞を伝授し、保存会員が指導を続け現在に至っている。(島田市指定無形民俗文化財)



### 遠州横須賀掛川三社祭礼囃子保存会

三社祭礼囃子は三熊野神社の例大祭の御神幸に供奉する山車(禰里)の囃子として受け継がれている。その囃子は江戸時代、横須賀城主が参勤交代の際にその家臣に江戸の祭礼囃子を習い覚えさせ、横須賀に伝えたものといわれる。保存会は昭和30年に結成され、長年にわたり囃子の伝承・保存のために活動。時代背景に合わせながら活動を創意工夫し、特に子どもたちへの継承に力を入れ、年齢に合わせた丁寧な指導を行なっている。(静岡県指定無形民俗文化財)



### 獅子舞かんからまち保存会

「かんからまち」は3年に1度行われる掛川大祭の三大余興の一つとして知られる。行列と3頭の獅子から成る芸能神事であり、例大祭の神輿渡御の先駆けとして重要な役割を果たす。由来に関しては諸説あるが、長い歴史を脈々と継ぐ「かんからまち」を、少子高齢化・人口減少といった課題を抱えながらも約40世帯の掛川市瓦町の人々が保存会を結成し、伝承している。(静岡県指定無形民俗文化財)

## プログラム

### 〈第1部〉

- ◆ 静岡県立駿河総合高等学校 和太鼓部
- ◆ 笹間神楽保存会、笹間地区の活動紹介
- ◆ 獅子舞かんからまち保存会
- ◆ 遠州横須賀三社祭礼囃子保存会、掛川市の活動紹介

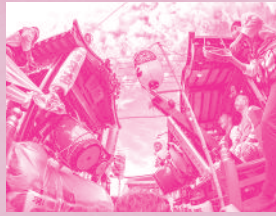
### 〈第2部〉

- ◆ 伊豆地域の三番叟について
- ◆ 「伝統芸能子どもサミット」について
- ◆ 舞囃子/観世流能楽師 長谷川晴彦
- ◆ 次回の2020年「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」にむけて 富士宮囃子保存会紹介



### 静岡県立駿河総合高等学校 和太鼓部

平成24年に旧静岡市立商業高校と旧静岡県立静岡南高校が統合して新設され、「音楽としての和太鼓」を大切に、日々稽古に励む。部員数は50名を超え、多くの人々に和太鼓の面白さや奥深さを伝えるため、年間を通じて積極的な公演活動を県内外で行なっている。



### 富士宮囃子保存会

富士宮囃子は富士山本宮浅間大社を氏神・守り神として信仰する氏子により育まれてきた奉納囃子である。浅間大社秋季例祭に20の氏子町内が祭り囃子を賑やかに囃しながら山車や屋台を引き回す。保存会は静岡県指定無形民俗文化財の指定の受け皿となるために発足し、複数の町内をまとめ保存・伝承に取り組んでいる。(静岡県指定無形民俗文化財)

※都合により、出演者等が変更になる場合があります。



### 長谷川晴彦 (観世流能楽師)

シテ方観世流能楽師・重要無形文化財総合認定(能楽)保持者。観世流準職分、能楽協会会員、公益財団法人梅若研究会評議員。1969年掛川市生まれ。掛川市立掛川第二小学校、掛川市立掛川西中学校、静岡県立掛川西高等学校卒業後、上京。1989年大学在学中に観世流の名門、梅若万三郎家に入門。観世流の研修生となり三世梅若万三郎に師事する。1997年に観世流準職分の認定を受け、翌1998年に国立能楽堂にて独立披露能を主催。以来、東京、静岡を中心とした全国各地ならびに海外13ヶ国での能公演に出演するほか、各地での能楽普及活動に努める。



### ◆コメンテーター 岩下尚史

作家。國學院大學客員教授。新橋演舞場(株)退社後、芸者の発生と変遷について著した『芸者論』にて、新人としては異例の第二十回和辻哲郎文化賞を受賞し、本格的な作家活動を開始。その他、三島由紀夫の恋人への取材を基に書き下ろした『見出された恋』、『ヒタメン』などの著作がある。また、日本の伝承芸能や古典的な暮らしについてのエッセイ等も多数著している。現在、季刊『美しいキモノ』(ハースト婦人画報社)、『銀座百店』(銀座百店会)にてエッセイを連載中。2019年1月より『北國新聞』にてエッセイ「オトナの金沢」が連載スタートした。グランシップマガジン内コラム「伝統芸は知るものではなく、身につけるもの。」も好評連載中。



### ◆司会 久保ひとみ

浜松市出身。テレビやラジオのレギュラー番組、CMなど多数出演し、タレント活動歴は23年以上。明るく親しみやすいキャラクターで「静岡の元気印」として県内での知名度は抜群。

## 次回の開催予定 「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」

〈第3回〉2020年5月下旬  
富士宮市民文化会館、  
富士山本宮浅間大社ほか

次回も  
ご注目!



### 交通アクセス

- ・ JR東静岡駅南口隣接
- ・ 静岡鉄道長沼徒歩10分
- ・ 東海道新幹線(ひかり)で東京、名古屋から1時間、新大阪から2時間。JR静岡駅乗換、東静岡まで3分
- ・ 車では、東名高速道路静岡I.C.から20分、新東名高速道路新静岡I.C.から15分、静岡バイパス千代田I.C.から10分
- ・ 公演当日は混雑が予想されますので、公共交通機関をご利用ください。



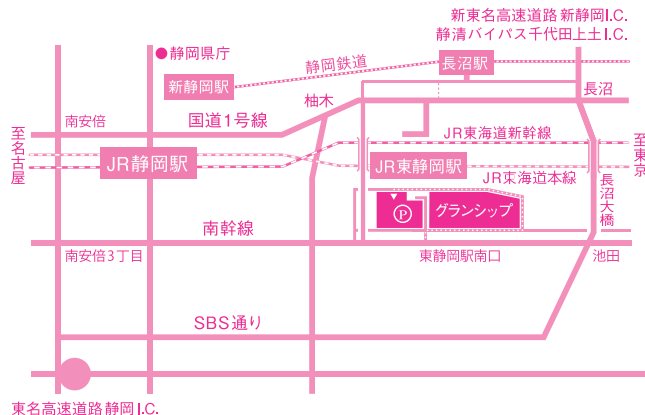
車椅子でご来場の方は、お申込み時にお知らせください。

【車椅子でのご来場のお問い合わせ】  
(公財)静岡県文化財団 事業課 TEL. 054-203-5714



2019  
静岡県文化プログラム

ふじのくに  
芸術祭



〒422-8019 静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号  
グランシップ指定管理者:公益財団法人静岡県文化財団  
ホームページアドレス <http://www.granship.or.jp/>

東名高速道路静岡I.C.